特　集

令和元年度 学校保健統計調査結果の概要

労働力・学事・農林班
電話 043-223-2220

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、統計法に基づく基幹統計調査として、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2　調査の根拠

統計法（平成１９年法律第５３号)、統計法施行令（平成２０年政令第３３４号）及び学校保健統計調査規則（昭和２７年文部省令第５号）による。

3　調査の範囲・対象

調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）とする。

調査の対象は、調査実施校に在籍する満５歳～１７歳（平成３１年４月１日現在）の幼児、児童及び生徒とする。

なお、千葉県の調査実施校数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

区分	県内学校数等		調査実施校等					
	学校総数（校・園）A	児童等総数（人）B	調査実施校数（校・園）C	調査実施校数 抽出率 C/A %	発育状態調査対象者数(人) D	発育状態調査対象 抽出率 D/B %	健康状態調査対象者数(人) E	健康状態調査対象 抽出率 E/B %
幼稚園	588	29,742	43	7.3	1,807	6.1	3,190	10.7
小学校	792	313,279	64	8.1	6,143	2.0	39,954	12.8
中学校	402	157,413	44	10.9	5,280	3.4	24,838	15.8
高等学校	182	148,326	37	20.3	3,202	2.2	36,521	24.6

（注）１．学校総数、児童等総数は令和元年度学校基本調査結果による。
２．発育状態調査は、年齢別、男女別に抽出された者を調査対象とし、健康状態調査では、調査実施校の在学者全員を調査対象者としている。
３．幼稚園の児童等総数は「満５歳児」の人数。
４．幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校の第１～６学年を、中学校には中等教育学校の前期課程及び義務教育学校の第７～９学年を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む。
５．高等学校の学校総数及び児童等総数には「通信制課程」を含んでいない。

４　調査事項

(1)　幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重）

(2)　幼児、児童及び生徒の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の状態、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病・異常の有無、結核の有無及び結核に関する検診の結果、心臓の疾患・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無）

５　調査の時期

調査は、学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成３１年４月１日から令和元年６月３０日の間に実施した。

６　調査系統

文部科学大臣 ―― 千葉県知事 ―― 調査実施校(園)の長

７　利用上の注意

(1)　統計表の符号の用法は、次のとおりである。

「　－　」----該当者がいない場合

「０.０」----計数が単位未満の場合

「　…　」----調査対象とならなかった場合

「　Ｘ　」----標本サイズが小さい、または標準誤差が大きいため統計数値を公表しない場合

(2)　表示単位未満は、四捨五入となっている。
このため、数値の内訳と合計が一致しない場合がある。

(3)　健康状態調査については、平成１８年度から調査対象校の全在学者を対象に調査を実施した。

Ⅱ　調査結果の概要

1　発育状態

(1)身長・体重の平均値

①身長

男子は、５、９、１１、１３歳で前年度の同年齢より高くなり、６～８、１０、１２、１４～１７歳では低くかった。女子は、７、９、１０、１４、１６、１７歳で前年度の同年齢より高くなり、６、８、１１、１３歳では低くなり、５、１２、１５歳は同値であった。１０、１１歳では、女子が男子を上回っている。

②体重

男子は、６、８、９、１１～１３、１５、１７歳で前年度の同年齢より増加し、１０、１６歳では減少し、５、７、１４歳は同値であった。女子は、５、８、１０、１２、１４、１５、１７歳で前年度の同年齢より増加し、６、９、１１、１６歳では減少し、７、１３歳は同値であった。

表１　身長・体重の千葉県平均値

区分			身長（cm）			体重（kg）		
			令和元年度①	平成30年度②	差①－②	令和元年度③	平成30年度④	差③－④
男	幼稚園	5歳	110.9	110.5	0.4	19.1	19.1	0.0
	小学校	6	116.8	116.9	△ 0.1	21.5	21.4	0.1
		7	122.8	123.0	△ 0.2	24.1	24.1	0.0
		8	128.7	128.9	△ 0.2	27.5	27.4	0.1
		9	134.1	134.0	0.1	31.2	30.8	0.4
		10	138.9	139.4	△ 0.5	34.1	34.5	△ 0.4
		11	145.8	145.4	0.4	39.1	37.9	1.2
	中学校	12	152.6	153.2	△ 0.6	43.7	43.6	0.1
		13	160.3	159.5	0.8	49.3	47.7	1.6
		14	165.4	165.9	△ 0.5	54.1	54.1	0.0
	高等学校	15	168.4	168.6	△ 0.2	58.8	58.6	0.2
		16	169.5	170.4	△ 0.9	60.1	60.6	△ 0.5
		17	170.9	171.3	△ 0.4	63.3	63.0	0.3
女	幼稚園	5歳	109.7	109.7	0.0	18.8	18.7	0.1
	小学校	6	115.9	116.0	△ 0.1	21.0	21.1	△ 0.1
		7	122.1	121.6	0.5	23.5	23.5	0.0
		8	127.6	127.8	△ 0.2	26.3	26.2	0.1
		9	134.0	133.9	0.1	29.9	30.0	△ 0.1
		10	140.2	140.1	0.1	33.9	33.5	0.4
		11	146.7	147.6	△ 0.9	38.6	39.1	△ 0.5
	中学校	12	152.1	152.1	0.0	43.7	43.4	0.3
		13	155.2	155.3	△ 0.1	47.3	47.3	0.0
		14	156.9	156.7	0.2	50.1	49.8	0.3
	高等学校	15	157.3	157.3	0.0	51.6	51.5	0.1
		16	157.8	157.5	0.3	52.7	52.8	△ 0.1
		17	158.6	158.0	0.6	53.9	53.6	0.3

(2)親の世代（３０年前：平成元年度）との比較

①身長

男子は、５、６歳で親の世代を下回り、１６歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、１３歳で最も差が大きかった。女子は、５、６、８歳で親の世代を下回り、１６歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、１７歳で最も差が大きかった。

②体重

男子は、５、６、１４～１６歳で親の世代を下回り、７、８、１０歳では同値で、他の年齢では親の世代を上回っており、１１歳で最も差が大きかった。女子は、５～９、１１～１６歳で親の世代を下回り、１０歳では同値で、１７歳では親の世代を上回っており、最も差が大きかった。

表２ 身長・体重の３０年前との比較

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			令和元年度①	平成元年度②	差①－②	令和元年度③	平成元年度④	差③－④
男	幼稚園	5歳	110.9	111.3	△ 0.4	19.1	19.5	△ 0.4
	小学校	6	116.8	116.9	△ 0.1	21.5	21.6	△ 0.1
		7	122.8	122.7	0.1	24.1	24.1	0.0
		8	128.7	128.5	0.2	27.5	27.5	0.0
		9	134.1	133.6	0.5	31.2	30.6	0.6
		10	138.9	138.8	0.1	34.1	34.1	0.0
		11	145.8	144.4	1.4	39.1	38.0	1.1
	中学校	12	152.6	151.6	1.0	43.7	43.4	0.3
		13	160.3	158.6	1.7	49.3	48.6	0.7
		14	165.4	164.6	0.8	54.1	54.5	△ 0.4
	高等学校	15	168.4	168.2	0.2	58.8	59.3	△ 0.5
		16	169.5	169.5	0.0	60.1	61.0	△ 0.9
		17	170.9	170.4	0.5	63.3	62.4	0.9
女	幼稚園	5歳	109.7	110.5	△ 0.8	18.8	19.1	△ 0.3
	小学校	6	115.9	116.4	△ 0.5	21.0	21.3	△ 0.3
		7	122.1	121.9	0.2	23.5	23.6	△ 0.1
		8	127.6	128.0	△ 0.4	26.3	26.9	△ 0.6
		9	134.0	133.4	0.6	29.9	30.1	△ 0.2
		10	140.2	139.6	0.6	33.9	33.9	0.0
		11	146.7	146.6	0.1	38.6	38.8	△ 0.2
	中学校	12	152.1	151.6	0.5	43.7	44.0	△ 0.3
		13	155.2	155.0	0.2	47.3	47.4	△ 0.1
		14	156.9	156.7	0.2	50.1	50.2	△ 0.1
	高等学校	15	157.3	157.2	0.1	51.6	52.2	△ 0.6
		16	157.8	157.8	0.0	52.7	53.2	△ 0.5
		17	158.6	157.8	0.8	53.9	52.0	1.9

(3)全国平均値との比較

①身長

男子は、１０、１２、１６歳で全国平均値を下回り、１４歳は同値、他の年齢では上回っている。女子は、１０歳は全国平均値と同値、他の年齢では上回っている。

②体重

男子は、７、１０、１２、１６歳で全国平均値を下回り、１４、１５歳は同値、他の年齢では上回っている。女子は、８～１２、１５歳で全国平均値を下回り、７、１３、１４、１６歳は同値、他の年齢では上回っている。

表３　身長・体重の全国平均値との比較

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			千葉県①	全国②	差①－②	千葉県③	全国④	差③－④
男	幼稚園	5歳	110.9	110.3	0.6	19.1	18.9	0.2
	小学校	6	116.8	116.5	0.3	21.5	21.4	0.1
		7	122.8	122.6	0.2	24.1	24.2	△ 0.1
		8	128.7	128.1	0.6	27.5	27.3	0.2
		9	134.1	133.5	0.6	31.2	30.7	0.5
		10	138.9	139.0	△ 0.1	34.1	34.4	△ 0.3
		11	145.8	145.2	0.6	39.1	38.7	0.4
	中学校	12	152.6	152.8	△ 0.2	43.7	44.2	△ 0.5
		13	160.3	160.0	0.3	49.3	49.2	0.1
		14	165.4	165.4	0.0	54.1	54.1	0.0
	高等学校	15	168.4	168.3	0.1	58.8	58.8	0.0
		16	169.5	169.9	△ 0.4	60.1	60.7	△ 0.6
		17	170.9	170.6	0.3	63.3	62.5	0.8
女	幼稚園	5歳	109.7	109.4	0.3	18.8	18.6	0.2
	小学校	6	115.9	115.6	0.3	21.0	20.9	0.1
		7	122.1	121.4	0.7	23.5	23.5	0.0
		8	127.6	127.3	0.3	26.3	26.5	△ 0.2
		9	134.0	133.4	0.6	29.9	30.0	△ 0.1
		10	140.2	140.2	0.0	33.9	34.2	△ 0.3
		11	146.7	146.6	0.1	38.6	39.0	△ 0.4
	中学校	12	152.1	151.9	0.2	43.7	43.8	△ 0.1
		13	155.2	154.8	0.4	47.3	47.3	0.0
		14	156.9	156.5	0.4	50.1	50.1	0.0
	高等学校	15	157.3	157.2	0.1	51.6	51.7	△ 0.1
		16	157.8	157.7	0.1	52.7	52.7	0.0
		17	158.6	157.9	0.7	53.9	53.0	0.9

2　健康状態

(1)疾病・異常の被患率等別状況

幼稚園及び小学校では「むし歯（う歯）」の比率が最も高く、中学校及び高等学校では「裸眼視力 1.0 未満の者」の比率が最も高くなっている。

また、「むし歯（う歯）」「裸眼視力 1.0 未満の者」以外は、全ての学校種別で「鼻・副鼻腔疾患」の比率が最も高くなっている。

表４　疾病・異常の被患率等別状況

区分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校
70%以上～90%未満					裸眼視力1.0未満の者
60 ～ 70					
50 ～ 60				裸眼視力1.0未満の者	
40 ～ 50					
30 ～ 40			むし歯（う歯） 裸眼視力1.0未満の者	むし歯（う歯）	むし歯（う歯）
20 ～ 30		むし歯（う歯）			
10 ～ 20				鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患
1～10	8～10		鼻・副鼻腔疾患		
	6～8		歯・口腔のその他の疾病・異常 耳疾患 眼の疾病・異常	眼の疾病・異常 歯列・咬合 歯垢の状態	
	4～6	鼻・副鼻腔疾患	ぜん息 歯列・咬合 その他の疾病・異常	耳疾患 その他の疾病・異常 歯肉の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常	歯列・咬合
	2～4	ぜん息 眼の疾病・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 歯列・咬合 耳疾患 その他の疾病・異常 アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎 歯垢の状態 歯肉の状態	ぜん息 アトピー性皮膚炎 せき柱・胸郭・四肢の状態	歯肉の状態 歯垢の状態 眼の疾病・異常 その他の疾病・異常 耳疾患 せき柱・胸郭・四肢の状態 心電図異常 ぜん息
	1～2	言語障害	心電図異常	蛋白検出の者 心電図異常	アトピー性皮膚炎 蛋白検出の者 歯・口腔のその他の疾病・異常 栄養状態
0.1～1	0.5～1	口腔咽喉頭疾患・異常 歯垢の状態 その他の皮膚疾患	心臓の疾病・異常 言語障害 難聴 口腔咽喉頭疾患・異常 せき柱・胸郭・四肢の状態 蛋白検出の者 栄養状態	心臓の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常	口腔咽喉頭疾患・異常 心臓の疾病・異常
	0.1～0.5	心臓の疾病・異常 歯肉の状態 蛋白検出の者 せき柱・胸郭・四肢の状態	その他の皮膚疾患 腎臓疾患 顎関節	栄養状態 その他の皮膚疾患 難聴 顎関節 腎臓疾患 尿糖検出の者	その他の皮膚疾患 難聴 顎関節 尿糖検出の者 腎臓疾患 言語障害
0.1%未満		顎関節 栄養状態 腎臓疾患	尿糖検出の者	言語障害	

（注）1. 疾病・異常被患率の標準誤差が5以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満、回答校が1校以下のときは、統計数値を公表しない。
2.「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
3.「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。
4.「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
5.「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
6.「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出（陽性（＋以上）又は擬陽性（±）と判定）された者である。
7.「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出（陽性（＋以上）と判定）された者である。

(2)主な疾病・異常等の推移及び全国平均値との比較

疾病・異常等のうち主なものについて、全国平均値との比較をみると

・「むし歯（う歯）」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を下回った。

・「裸眼視力 1.0 未満の者」の比率は、小学校で全国平均値を下回り、中学校及び高等学校では上回った。

・「鼻・副鼻腔疾患」の比率は、小学校で全国平均値を下回り、幼稚園、中学校及び高等学校では上回った。

・「ぜん息」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を上回った。

・「心電図異常」の比率は、小学校、中学校及び高等学校で全国平均値を下回った。

・「蛋白検出の者」の比率は、全ての学校種別で全国平均値を下回った。

表５　主な疾病･異常の全国平均値との比較

（単位：％）

区分		むし歯（う歯）			裸眼視力1.0未満の者			鼻･副鼻腔疾患		
		千葉県①	全国②	差①－②	千葉県③	全国④	差③－④	千葉県⑤	全国⑥	差⑤－⑥
幼稚園	平成27年	34.6	36.2	△ 1.6	X	26.8	…	2.1	3.6	△ 1.5
	28年	35.3	35.6	△ 0.3	X	27.9	…	2.8	3.6	△ 0.8
	29年	34.6	35.5	△ 0.9	23.0	24.5	△ 1.5	2.9	2.9	0.0
	30年	33.4	35.1	△ 1.7	X	26.7	…	3.1	2.9	0.2
	令和元年	**23.9**	**31.2**	**△ 7.3**	**X**	**26.1**	**…**	**4.0**	**3.2**	**0.8**
小学校	平成27年	50.2	50.8	△ 0.6	30.2	31.0	△ 0.8	11.0	11.9	△ 0.9
	28年	47.0	48.9	△ 1.9	30.4	31.5	△ 1.1	12.3	12.9	△ 0.6
	29年	43.3	47.1	△ 3.8	30.5	32.5	△ 2.0	11.5	12.8	△ 1.3
	30年	39.3	45.3	△ 6.0	33.9	34.1	△ 0.2	12.7	13.0	△ 0.3
	令和元年	**38.8**	**44.8**	**△ 6.0**	**33.3**	**34.6**	**△ 1.3**	**9.9**	**11.8**	**△ 1.9**
中学校	平成27年	41.0	40.5	0.5	51.7	54.1	△ 2.4	11.3	10.6	0.7
	28年	35.1	37.5	△ 2.4	53.4	54.6	△ 1.2	12.9	11.5	1.4
	29年	34.5	37.3	△ 2.8	60.3	56.3	4.0	14.9	11.3	3.6
	30年	30.1	35.4	△ 5.3	51.6	56.0	△ 4.4	9.9	11.0	△ 1.1
	令和元年	**31.8**	**34.0**	**△ 2.2**	**57.6**	**57.5**	**0.1**	**18.1**	**12.1**	**6.0**
高等学校	平成27年	48.7	52.5	△ 3.8	X	63.8	…	10.5	7.3	3.2
	28年	47.4	49.2	△ 1.8	X	66.0	…	10.1	9.4	0.7
	29年	38.6	47.3	△ 8.7	X	62.3	…	6.1	8.6	△ 2.5
	30年	41.4	45.4	△ 4.0	70.3	67.2	3.1	8.7	9.9	△ 1.2
	令和元年	**39.5**	**43.7**	**△ 4.2**	**83.0**	**67.6**	**15.4**	**11.9**	**9.9**	**2.0**

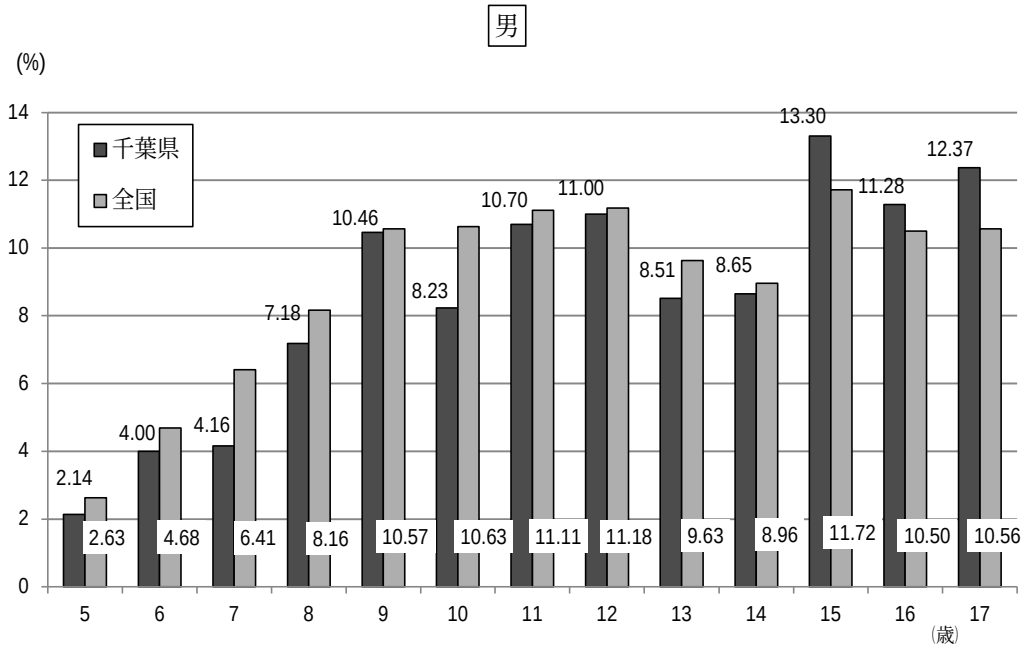
区分		ぜん息			心電図異常			蛋白検出の者		
		千葉県⑦	全国⑧	差⑦－⑧	千葉県⑨	全国⑩	差⑨－⑩	千葉県⑪	全国⑫	差⑪－⑫
幼稚園	平成27年	2.6	2.1	0.5	…	…	…	0.4	0.8	△ 0.4
	28年	3.1	2.3	0.8	…	…	…	0.5	0.7	△ 0.2
	29年	3.2	1.8	1.4	…	…	…	0.3	1.0	△ 0.7
	30年	4.2	1.6	2.6	…	…	…	0.4	1.0	△ 0.6
	令和元年	**3.0**	**1.8**	**1.2**	**…**	**…**	**…**	**0.2**	**1.0**	**△ 0.8**
小学校	平成27年	6.4	4.0	2.4	1.0	2.4	△ 1.4	0.8	0.8	0.0
	28年	5.4	3.7	1.7	0.9	2.4	△ 1.5	0.7	0.8	△ 0.1
	29年	5.3	3.9	1.4	1.2	2.4	△ 1.2	0.8	0.9	△ 0.1
	30年	5.7	3.5	2.2	1.1	2.4	△ 1.3	0.7	0.8	△ 0.1
	令和元年	**5.2**	**3.4**	**1.8**	**1.3**	**2.4**	**△ 1.1**	**0.7**	**1.0**	**△ 0.3**
中学校	平成27年	4.4	3.0	1.4	1.5	3.2	△ 1.7	1.9	2.9	△ 1.0
	28年	4.6	2.9	1.7	2.2	3.3	△ 1.1	2.3	2.6	△ 0.3
	29年	3.4	2.7	0.7	1.9	3.4	△ 1.5	2.4	3.2	△ 0.8
	30年	2.9	2.7	0.2	1.6	3.3	△ 1.7	2.0	2.9	△ 0.9
	令和元年	**3.8**	**2.6**	**1.2**	**1.5**	**3.3**	**△ 1.8**	**1.9**	**3.4**	**△ 1.5**
高等学校	平成27年	2.7	1.9	0.8	1.9	3.3	△ 1.4	1.6	3.0	△ 1.4
	28年	2.7	1.9	0.8	1.7	3.4	△ 1.7	1.6	3.3	△ 1.7
	29年	2.5	1.9	0.6	1.6	3.3	△ 1.7	1.7	3.5	△ 1.8
	30年	1.1	1.8	△ 0.7	1.8	3.3	△ 1.5	2.2	2.9	△ 0.7
	令和元年	**2.0**	**1.8**	**0.2**	**2.1**	**3.3**	**△ 1.2**	**1.8**	**3.4**	**△ 1.6**

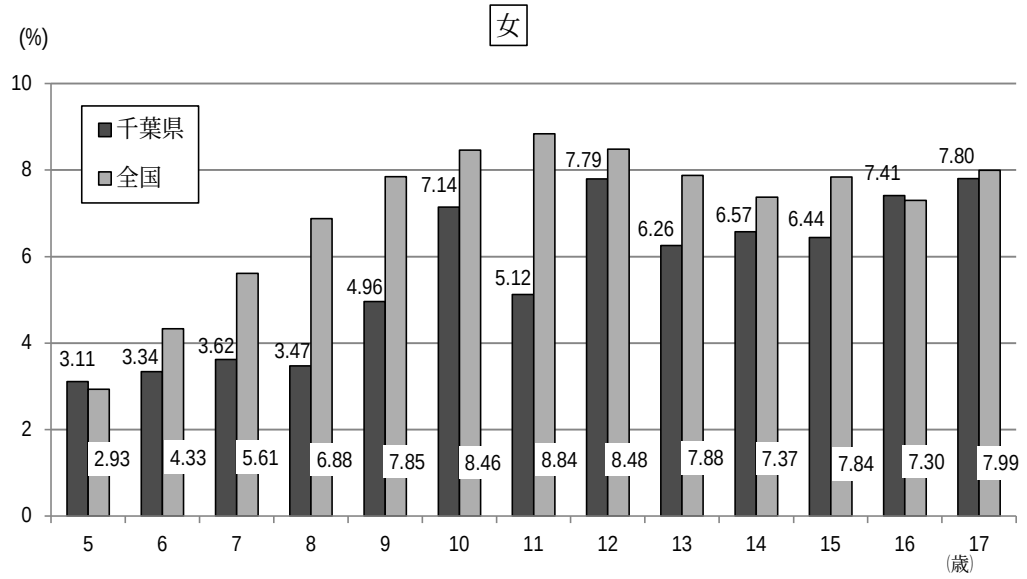
(注) 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

３　肥満傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子は、１５～１７歳で全国平均値を上回ったが、他の年齢では全国平均値を下回った。女子は、５、１６歳で全国平均値を上回ったが、他の年齢では全国平均値を下回った。

図1　肥満傾向児の出現率　全国平均値との比較





（注）１．肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が２０%以上の者である。

肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）/ 身長別標準体重　×　１００（%）

２．肥満傾向児の算出については、平成１８年度から現行の方法に変更されている。